

少しずつ自分を表現しながら、安定してみんなと一緒に生活する子

杉谷 真由美

物や場所にこだわって、片時も手から物を放せず、参加すべき集団からは常に離れようとし、これらの制上に泣きわめいて拒否する自閉症のK児。新学期の様々な変化への不適応のためか、一年生での成長が消えたように退行していた。K児が心の安定をとり戻し、広く深い表現を身につけ、みんなと一緒に学校生活をすごす願いを、からだのゆさぶりを通して取り組んだ事例について述べる。今、K児は忘れていた力を思い出すかのように、愛着行動を示し、模倣力の向上、表出言語の現れ、自己統制など見せてきている。

1. 実 態

- 昭和 57 年 1 月 1 日生（7 才）。男児
- 障害名 自閉症…昭和59年児童相談所にて診断
- 生育歴 発育上問題はなかった。1才7カ月で高熱によるひきつけを起こした後、声かけに反応がなくなる。かんろ保育園で1年、若草学園で3年保育を受けて本校入学。
- 若草学園中で、音声模倣が見られ、習慣化された事への指示なら反応した。働きかけに時折笑顔を見せて反応した。
- 昨年3月末では、絵本・具体物を前に言葉を言うとよく模倣し「イキタイ」「トッテ」等要求語もみられた。引っぱりによる要求はたくさんあり、朝出会うと笑顔を見せた。少しずつ「アトデ」が聞けだし、作業的学習、指遊び、を中心に着席行動がとれだし、援助されながらみんなと一緒に行動できだした。

MEPA プロフィール表

Profile for Movement Education Program Assessment

年齢	29				27				25				23				21				19				17				15				13				11				
	61-72	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
5	49-60	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
5	37-48	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
4	19-36	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
3	13-18	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
2	7-12	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
1	0-6	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
年齢	61-72	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
性別	男																																								
年齢	61-72	28	28	28	26	26	26	26	24	24	24	24	22	22	22	22	20	20	20	20	18	18	18	18	16	16	16	16	14	14	14	14	12	12	12	12	10	10	10	10	
性別	男																																								

2. つけたい力

- (1) からだをゆさぶることを通して、心の安定、人との関わり、発達の基礎となる力（感覚運動機能や身体意識、模倣能力）、生活リズム、自己統制など定着・向上する力。
- (2) (1)の取り組みを前提に、からだの動きを通しての言葉で表現する力。

3. 指導の方針

- (1)
 - 心の安定や人との関わり、感覚刺激につながるからだのゆさぶりをする。
 - からだを動かし、動きを言語化して身体意識、模倣力を高める。
 - 好きなことにじっくり取り組むからだをがんばる力につなげる（着席行動を含む）。
 - テーマ曲やパターン化された生活リズムにより心の安定と見通しをもった自主的取り組みの力を育てる。

- (2) 日常生活全般において、K児の要求をよみとり言語化する。徐々に音声模倣→考えて言わせる→自発的に言うを目指す。言葉を発する気持ちの高まりにつながるからだのゆさぶりに重点。

4. 指導の実際

- (1) 全ての基本にラポートがとれているかを考える。K児にとってこの人ならという人間になることを第1とする。このことにつながるK児の場合の効果的なからだのゆさぶりは、
- ・だっこする緊密な身体接触で関りが深まり、又、着席や移動、パニックの安定にも効果的。
 - ・セラピーボールにのせて揺り動かす。目と目が合うことが多くあり。笑い声が多くきかれた。
 - ・プール学習。時期的にちょうど適当だった。水の刺激は快い安定と人との関りをもたらしした。
- 約2週間で、大泣きすることは減り（無理な制止を控えたこともある）、目と目が合い、「おいで」と手をさしのべることに、K児から腕の中に入って来て教室に戻れるようになった。
- 逆に文字積木・パズルBOX・本並べの時手出しは拒否されがちで、その関りを許容してくれる人になる方が良いと感じた。とり上げるのではなく、手に持つのを許容して学習参加させた。

その後、くすぐる、ほっぺをふくらます→押すの対人遊びも喜んだ。

- (2) リズム・サーキットでの取り組みの変容は、生活全体での対人関係、集団参加、指示をきく、模倣等の変容が象徴的に現れてきた。リズム・サーキットの変容とその他の生活での変容を示す。

リズムに合わせた基本の運動では、窓の所に座り参加しない、させようとする座り込んで抵抗する。

サーキットになると参加するが、途中で止めてしまうことも多い。待つ間は教室外へ出ようとするものが度々ある。



手だて…1対1でK児につき、手をつないで歩いたり、手足を動かして参加させる。待つ間教室内なら動いてもよいとするが、活動にはよほど体調が悪いが泣いて拒否することのない限り参加させる。対人遊びのように楽しむ。



基本の運動	歩く	何度も抱きかかえて立たせ手をつないで歩く→手をもって引き上げつま先で歩きだす→座り込み少ない
	走る	手をつないで走る→走る楽しさが笑顔が出る→隣についてたら一人で走る→指示・模倣で手を広げ片足
	四つばい	手とり足とり四つばいにさせる→隣でしてみせると一人でする→一人でどンドン四つばいですすむ
	回転	手をつないで回す→笑顔が出る、目が合う→一人でやりだすこともある→合図で寝転びだし、起きる
	休憩	押えつけるように、又足をもって寝させる→隣で寝てれば模倣する→手を伸ばすようになる
サーキット	金魚	足をもって動かす、何度も立とうとする→動かしてもらうことを喜んでいる
	とび石	色指定に合わせてする→足首をもって一つとぼしをする→色指定で一つとぼしを一人でする
	〃	反対にの声かけで平均台を後ろ向きに歩く。友達のを自分から真似てトンネルを腹ばいでおりる。
順番を待つ	ケンパ	声かけと合わせ隣でしてみせる。手をつないで→ケンパバン（同時でない）→ケンパがきだす。
		部屋中動いたり、窓枠にいたり→所定の所に座ることがふえる→名前を呼ばれて返事することもある。

<対人関係> コラと注意されてニヤリと笑い返す。担任の顔をみて笑いながら遊びのようにいたづらをする。制止に泣かずにほっぺをふくらまし怒り顔で反応。ダメ、アトデで我慢できだす。

<模倣> ラジオ体操を見ながら左右の指示もよくきいてす



る。ひげじいさん等の手遊び歌を見ながらしだす。文字や絵を見てかくことを好み、だんだん正確になる。友達のしていることを真似て活動したり集団行動したりする。

<生活リズム>テーマ曲が流れると自分から洗面、掃除にかかるようになる。着がえの曲があれば、遊びの途中でも止めることができます。学習後、間髪入れずにランチルームへ連れていくことを繰り返すと、自分一人でもランチルームに行くようになる。給食に遅れることはなくなった。教室移動の際「次は〇だよ」の指示と行動を繰り返すうち1番に教室に戻ってくるようになる。

(3) じっくり取り組めたものや、学習参加や着席行動につながる活動の事例をあげると、

・宿泊のしおりのなぞりがき・ハケを使った旗ぬり・型はめはりえ・たぬきのお面・顔作り・調理(きざみ、ホットケーキ、茶巾絞り)・スタディエース(かしこいこりす)・視写等操作的なもので、逆に援助を必要とするのは・話を聞く・順番を待つ・場所移動を含むものなどである。これらに対し、抱っこして話をきく。視覚聴覚に訴える紙芝居化をする、どんだん文字を書くなどの活動を話の中にもり込む、くり返して見通しをもたせるなど集中できるものを手がかりに学習活動を考え繰り返すことが有効であった。



(4) 音声模倣も待ちの姿勢でいることにより見られだした。自発語を中心にみた表出言語は、

“さよならマーチ”に合わせてバイ・泣きながらパズルを要求してチョーダイ・階段をおりながら1.2. … (7月)
・コーヒーをみてノミタイ・カレンダーをはぐりすぎてヤブレター・意に合わないことにイヤダ、ダメ、チガウ
・せんべいをみてホソイナ・失敗してアーア・アシ イタイ・これは何とくり返し質問したらワカトル(9月)
・イッキウサン ハイ、ブ・エ・ペロペロ(言ってと要求)・積木を取っての意でツミキ・パンツをぬらして、ヌレチャッタ・ごちそうさまをしての意で手を引っぱりバチ・失敗してドーシヨウ・遊び終わりの意でカタツケテと文字積木を渡す・じゅうたんをたたんでの意でパッタン・ドケテ・ちょうだいになにダメ・どこいったかなにアッチ

場面に応じた言葉や反応の言葉がみられだしている。回りを意識しだしたことに平行している。

5. 考察と今後の課題

レポートづくりを第1としてK児と接してきた。指導ができだすなと感じてまだ2ヶ月であるが、
・周りの人を意識して行動する・生活リズムのパターン化も含めて心が安定し、がまんのもついた。見通しをもって自主的に行動することが多くなった・模倣する意識がよくみられる
・場に応じた自発語がふえてきている等の変化が見られているので、しばらくこの実践を続けていきたいと思う。